

第15回 敬称

教科書の該当ページ：74～75 ページ、121～124 ページ

敬称 → 教科書第12課①

フィンランド語では、聞き手(2人称)が目上だったり親しくない人だったりするときは、2人称単数形の代わりに2人称複数形を用います。これを敬称と言います。敬称を用いる場合、人称代名詞も所有接尾辞も動詞の人称接辞もすべて2人称複数形になります。人称代名詞については、通常の2人称複数代名詞と区別して、大文字で **Te** と表記することがあります。

例) 君は両親と一緒に暮らしているの

Asutko	sinä	vanhempiesi	luona?
住む(2人称単数)	君(2人称単数)	両親(複数属格)・所有接尾辞(2人称単数)	後置詞
あなたはご両親と一緒に暮らしているのですか			
Asutteko	Te	vanhempienne	luona?
住む(2人称複数)	君(2人称複数)	両親(複数属格)・所有接尾辞(2人称複数)	後置詞

どのような場合に敬称を使うかは、個人差もあり、状況に応じて判断するしかありません。

命令文 → 教科書第12課②

第9回で見たように、命令文「Bを～しなさい」は「命令形の動詞+目的語B」で表されます。動詞の命令形は、人称語尾を取り去った形、つまり語幹の形と同じです。しかし、命令する相手が一人でなく複数の場合は別の形が使われます。2人称複数に対する命令形の作り方は、動詞のグループで決まっています。階程交替する動詞の場合、子音の階程は不定詞と同じになります。

グループ I	不定詞末尾の・a/-ä を取って・kaa/-kää をつける。
グループ II	不定詞末尾の・da/-dä を取って・kaa/-kää をつける。
グループ III	不定詞末尾の・la/-lä/-na/-nä/-ra を取って・kaa/-kää をつける。
グループ IV	不定詞末尾の・ta/-tä を取って・kaa/-kää をつける。
グループ V	不定詞末尾の・a/-ä を取って・kaa/-kää をつける。
グループ VI	不定詞末尾の・a/-ä を取って・kaa/-kää をつける。
グループ VII	不定詞末尾の・a/-ä を取って・kaa/-kää をつける。

この形は、命令する相手が複数のときだけでなく、目上や親しくない相手に対する敬称として使われることもあります。目的語Bの表示は、2人称単数に対する命令形と同じように、「目的語名詞が可算名詞の単数」かつ「動詞のアスペクトが完了」で、「文が否定文でない」ときは**主格**で、その他の場合は**分格**で表示されます。

様格 → 教科書第8課⑤、第12課③

フィンランド語には様格という格があります。この格は、「…の状態で」「～として」というような一時的な状態を表わします。様格は語幹に-na あるいは-nä をつけて作ります。

例) 彼はトゥルクで医者をしている。 Hän on Turussa lääkäriinä(単数様格).
申込用紙を電子メールで送ります。 Lähetän lomakkeen sähköpostina(単数様格).

動詞 pitää と共に用いると、「～を～と思う」という意味になります。

例) 君の提案はばかげていると思う。 Pidän ehdotustasi typeränä(単数様格).

また、様格は、perjantina「金曜日に」、arkipäivänä「平日に」のように曜日を表したり、序数の様格を使って、syyskuun seitsemäntenä päivänä「9月7日に」のように日にちを表わしたり、tänä vuonna「今年」、viime vuonna「去年」、ensi vuonna「来年」、vuonna kaksituhattakahdeksan「2008年に」のように年を表わしたりします。

第6回で見たように、一日の時間帯や季節は{所で}格で表わしますが、tänä aamuna「今朝」、viime yönä「昨夜」、tänä syksynä「この秋」、ensi talvena「今度の冬」のように、一日の時間帯や季節が特定されている場合は様格で表わします。